

13：健常人の坐位と仰臥位でのカプサイシン咳感受性試験による咳閾値の比較検討

○渡邊直人、成 剛、福田 健(獨協医科大学呼吸器・アレルギー・内科)

【目的】気道過敏性は体位により異なることが報告(J. Sulc, et al. :Eur Respir J 14:1326-1331,1999)されている。今回我々は、健常人のカプサイシン咳感受性試験による咳閾値をその坐位と仰臥位で求め、体位により咳閾値に差異があるか否かを検討した。

【対象】健常人 31 名(年齢 23-44 歳、男性 22 名:女性 9 名)。

【方法】坐位でカプサイシン咳感受性試験を行い咳閾値を求めた。次に 2 週間以内に仰臥位において同様に咳閾値を求め比較検討した。また同時に PEF, FEV1, FVC を測定し検討した。

【結果】坐位における咳閾値の平均は 16.71 μ M、仰臥位における咳閾値の平均は 13.99 μ M で有意差は認められなかった。

また坐位においてはカプサイシン吸入後で PEF, FEV1, FVC の低下は認められなかったが、仰臥位においては PEF, FEV1 は有意に低下していた。さらに体位による PEF, FEV1, FVC の比較ではカプサイシン吸入後の PEF, FEV1 が仰臥位で有意に低下していたが、FVC には有意差はなかった。

【考察】咳感受性は気道過敏性とは異なり体位により変動しないものと考えられた。しかし仰臥位ではカプサイシンによる気道収縮の影響を受け易いことが示唆された。